

ふくいサイエンスフェスタ2018 福井県合同課題研究発表会参加報告

期 日：平成31年2月11日(月・祝)

場 所：AOSSA (福井県県民ホールほか)

参加者：SS 化学部生徒 8 名、SS 生物部生徒 1 名

引 率：浮田直美教諭

ふくいサイエンスフェスタ2018・福井県合同課題研究発表会では、午前中にノーベル物理学賞受賞者である梶田 隆章先生の「神岡でのニュートリノ研究を振り返って」という題の講演を聴きました。講演の中で梶田先生は物理学者になるまでの経緯やニュートリノの質量の発見に至るまでをお話してくださいました。梶田先生はその発見に至るまでの時間について、「研究者にとって楽しい時間で、苦しいとは感じなかった」と語られました。また、生徒からの質問には、私たちにも理解できるようにとても分かりやすく答えていただき、研究への姿勢だけでなく、質問への答え方、大勢の前での発表の仕方についても学ぶことができました。

午後にはそれぞれの部が口頭発表とポスター発表を行いました。SS 化学部は「ナタマメ粉末のウレアーゼ活性」と「飽和水溶液面で浮きながら成長する NaCl 結晶」について、SS 生物部は「トミヨの環境 DNA の検出と生息環境について」についての発表をしました。

口頭発表では伝えたい要点をまとめ、丁寧に分かりやすく発表することを心がけました。しかし、実験内容を分かりやすく伝えることや、質問に対して適切に答えることに困難を感じました。また、口頭発表にまだまだ慣れておらず、今後の発表に向け改善しなければならないと思いました。

ポスター発表では、内容を分かりやすく伝えるために、科学部は実験で得られた NaCl 結晶の実物や結晶の模型をみせるという工夫も行いました。生物部は1年生1人での発表でしたが、研究の内容を堂々と説明していました。多くの高校生や高校・大学の先生方が参観され、発表を通して今後活かすことができる多くの質問やアドバイスをもらいました。私たちも、他校の多くの発表を見ることで様々な分野の研究を知ることができました。

この発表会で日頃は体験できない貴重な話を多く聞くことができ、今後の研究だけでなく、生活においても活かせることがあると感じました。また、発表する中で良かった点、改善するべき点について仲間たちと話し合うことができ、非常に有意義で内容の濃い1日となりました。

